



—東地中海・北アフリカ地域ニュース—

イラク：主な武装勢力諸派の概況

「イラクとシャームのイスラーム国」がニナワ県を制圧した後、治安悪化が深刻化している。一方、イラクには「イスラーム国」以外にも多様な武装勢力が存在し、諸派は状況に応じて政府との協調・離反、相互の抗争を繰り返してきた。主な団体の概況と特記事項は以下の通り。なお、イラクの武装勢力についての詳細・相互関係などについては、『中東研究』496号85-96ページを参照のこと。

名称	概要	特記事項
イラクとシャームのイスラーム国 الدولة الإسلامية في العراق و الشام	<ul style="list-style-type: none"> <li>* 2004 年前半にアブー・ムスアブ・ザルカーウィー率いる「タウヒードとジハード団」がイラクで活動を開始。</li> <li>* 2004 年 10 月にウサーマ・ビン・ラーディンに忠誠表明を行い、それを受けて「二大河の国のアル=カーイダ」と改称。</li> <li>* 2006 年 1 月に武装勢力諸派と連合して「イラクのムジャーヒドゥーンのシューラー評議会」設立声明を発表。</li> <li>* 2006 年 10 月に諸部族などとも連合して「イラク・イスラーム国」樹立を宣言。</li> <li>* 2013 年 4 月、シリアで活動する「ヌスラ戦線」が自派の一部であると公表、同派と統合して「イラクとシャームのイスラーム国」と改称すると発表。</li> <li>* 2014 年 2 月以降、「アル=カーイダ」と絶縁状態になる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>* 2004 年 10 月に日本人旅行者殺害事件を起こした。</li> <li>* 2006 年以降の合同・拡大方針は、他の武装勢力諸派にとっては「他党派解体・併合政策」に過ぎなかったため、「イスラーム国」に合流しなかった諸派と敵対・交戦するようになった。</li> <li>* 「ヌスラ戦線」は同派との統合を拒否した。</li> </ul>
アンサール・イスラーム団 جماعة انصار الاسلام	<ul style="list-style-type: none"> <li>* クルド地区で活動していたイスラーム過激派「アンサール・スンナ」のフロント組</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>* 2005 年 5 月に日本人傭兵殺害事件を起こした。</li> <li>* 2007 年ごろ、「アンサール・</li> </ul>

	<p>織として、2004 年ごろから「スンナの信徒軍」との名称で活動。</p> <p>* 2006 年 5 月に「アンサール・スンナ団」と改称。</p> <p>* 2007 年 12 月、自派が「アンサール・イスラーム」の後継団体であることを認め、現在の名称に改称。</p>	<p>スンナ団（シャリーア委員会）が分派した。</p> <p>* 「イスラーム国」とは深刻な敵対関係にあり、2013 年前半から同派がザワーヒリーらに「イスラーム国」の横暴を訴える書簡等が出回っている。</p>
<p>イラクのイスラーム軍 الجيش الاسلام في العراق</p>	<p>* 2004 年ごろから活動が公然化。</p>	<p>* 2005 年 7 月に「日本軍を攻撃した」と主張する声明発表した。信憑性は不明。</p> <p>* 2007 年ごろから「アル=カーイダ」から攻撃を受けるようになる。</p>
<p>ムジャーヒドゥーン軍 جيش المجاهدين</p>	<p>* 2004 年ごろからネット上で広報を開始。</p>	<p>* 2007 年～2008 年に「イラクのイスラーム軍」と連合を組んでいた。</p>
<p>イスラームの盾部隊 كتائب درع الاسلام</p>	<p>* 2007 年 2 月から活動開始。</p>	<p>* 専らイラクの治安部隊やシーク派諸派の民兵の構成員を暗殺する作戦を実施。</p>
<p>ナクシュバンディー教団のリジャール軍 جيش رجال الطريقة النقشبندية</p>	<p>* 2006 年末ごろから広報活動を開始。</p>	<p>* イスラームの伝統的な教団組織の名称を冠しており、イスラーム過激派とは異なるイデオロギーで活動していると思われる。</p> <p>* バアス党を中核とする連合体に加盟している。</p>
<p>イラク革命のための軍事評議会 المجلس العسكري العام لثوار العراق</p>	<p>* 2011 年以降に部族勢力とイラク政府との関係が悪化してから活動を始めたと思われる。</p>	<p>* 「イラク革命」との名称は「アラブの春」の政治変動を模倣した政権打倒運動としての意味合いがある。</p> <p>* 2014 年 3 月にバグダード空港に就航する航空各社に運行をやめるよう脅迫し、同空港を砲撃した。</p>

現在、「イスラーム国」以外の諸派もイラクの軍・治安部隊が放棄した拠点や装備を奪取し、その成果を盛んに広報している。また、一部勢力は、現在の状況を「イスラーム国」の

侵攻ではなく、自派やイラクの諸部族による「革命」の成果であると主張している。これに対し、「イスラーム国」の側は、諸派が「イスラーム国」が挙げた成果を横取りしようとしているとして警戒・対決姿勢を強めている模様である。元来、「イスラーム国」とイラクの武装勢力諸派、部族勢力との関係は極めて悪いため、現在諸派の間の抗争が表面化しないのは、「イスラーム国」を含む諸派が、イラク軍が放棄した拠点・装備の奪取を優先しているためと思われる。このため、諸派の活動地域が隣接・重複したり、奪取すべき拠点や装備がなくなり、諸派が活動のための資源や勢力圏を奪い合ったりするようになれば、年来の敵対関係が激化し、武装勢力同士の抗争・戦闘が再燃することが予想される。

(イスラーム過激派モニター班)

---

©本「かわら版」の許可なき複製、転送、引用はご遠慮ください。

ご質問・お問合せ先 公益財団法人中東調査会 TEL:03-3371-5798、FAX:03-3371-5799